

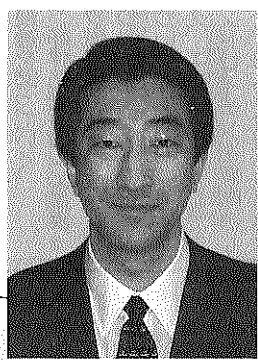
漢方薬は何種類あるかご存知だろうか？1000種類？10000種類？

答えはもっととしが言い方がない。なぜならは漢方の歴史は『傷寒論』以来新しい組み合わせを創ることに終始してきたからだ。今まで作られた薬は何万種類もあるだろうがその中で残ってきたものが現在用いられている処方ということになる。

現在、医療用に用いられている漢方薬は148種類あるが、その多くは紀元後2世紀前後に書かれたとされる『傷寒論』『金匱要略』にその出典を辿れる。一方、一番新しい漢方薬は？というところ、1952年にわが国で創られた七物降下湯ということになる。この処方はお動脈硬化を伴う高血圧症に用いられる処方であるが、大塚敬節自身が眼底出血をした際に工夫して創ったもので、その経緯は創元社『新版漢方医学』に詳述されている。

漢方薬は全て古臭いと考えておられる方もいるが、分かっているだけでも1800年前から60年前まで、実に1700年以上の長い歴史の中で創られたものであり、比較

慶應大学医学部助教授



漢方シリーズ⑦

漢方薬は何種類あるの？

渡辺賢治

が重要であった。時代背景を読むことは、漢方薬の性質を理解する上で重要なヒントになる。

漢方処方の中には長年の間に淘汰されたものが数多くある。特に、古来より不老不死は人間の究極的な願望であった。初めて中国を統一した秦の始皇帝が、不老不死の薬を求めがあまり、徐副を重用し国を乱したことは有名である。

『抱朴子』を著した葛洪に代表される神仙流といわれる治療家たちは、不老不死の薬を求めて研究を重ねた。中でも鉛が神仙流の中では重用され、鉛を含んだ処方が数多く生み出された。中国の皇帝の多くが鉛中毒により亡くなったものと考えられる。その他、五石散といわれる処方は、五種類の鉱

物(石鍾乳・石硫黄・白石英・紫石英・赤石脂)であり、どうやら砒素も入っていたらしい。発明者は魏の何晏(かあん)である。とされるが異説も多い。

強壮、強精薬として六朝・隋唐時代に大流行したが、中毒死は後を絶たず、3世紀から8世紀の500年間に死亡したのは数百万にのぼるといふ。薬害の最たるものである。このように多くの処方

が生み出されてきた歴史の中で、薬害を起こすものが淘汰され、質の良いものが残って現在の漢方処方に至っているのである。漢方医学では「親試実験」といい、その処方を現実に治療に当てはめて研究するのであるが、いわば長年にわたる臨床研究の結果、現在の漢方処方に落ち着いたと考えられる。

的新しいものもあることを知ってほしい。そして現代の漢方専門家の多くも新しい処方を探索しているのである。

西洋医学では1500年前ほど前から成分の抽出に努力を注ぎ、現在では遺伝子創薬をする、とい

う時代にある。その人に合ったオーダーメイドの加減にこだわるところに、新しい処方へと発展していくのである。つまり、同じように生薬治療をしていた東西医学が大きく分かれた分岐点

が、約150年前という

飽食の時代には体内に蓄積した毒を解毒すること